

令和7年度第1回 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会
議事要旨

(1) 概要

開催日時	令和7年5月30日(金) 午後3時30分から午後5時10分まで
開催場所	荒川区役所 庁議室
出席者 (敬称略)	<p>(協議会委員)</p> <p>委員 遠藤 智久 委員 丸山 慎二郎 委員 鈴木 あづさ 委員 竹前 友勝 委員 田中 類 委員 細谷 誠 委員 山田 章博</p> <p>(区側出席者)</p> <p>荒川区長 滝口 学 産業経済部長 小林 弘幸 産業振興課長 山下 英男 経営支援課長 中野 大志 就労振興課長 伊藤 大介 観光振興課長 渡部 雅人</p>
欠席者 (敬称略)	委員 野城 菜帆
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会委員名簿 ・ 資料2 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会委員名簿 分科会別(案) ・ 資料3 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会設置要綱 ・ 資料4 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会の概要 ・ 資料5 会議のスケジュールについて(案) ・ 資料6 荒川区の産業振興施策について ・ 資料7 荒川区の観光振興施策について ・ (参考配付) 産業経済部各種パンフレット

(2) 区長挨拶

挨拶	開会にあたり、滝口荒川区長から挨拶があった。
(開会挨拶要旨)	
・荒川区を元気にしていくことは、行政だけで出来ることではない。	
・お仕事をされながら、地域で荒川区を盛り上げていく取組をされている皆さんのお知恵とお力をいただいて、荒川区を前に進めていきたい。	
・そんな思いで、この会議体を発足させていただいた。	

(3) 議事

議題	会長の選出及び副会長の指名
議事内容	
・設置要綱第4条に基づき、遠藤智久委員が会長に、丸山慎二郎委員が副会長に選任された。	

議題	会議の運営について
議事内容	
・設置要綱第6条に基づき、「地域経済活性化に関する分科会」及び「観光プロモーションに関する分科会」が設置され、地域経済活性化に関する分科会の会長に遠藤智久会長が、観光プロモーションに関する分科会の会長に丸山慎二郎副会長が選任された。	

議題	荒川区の産業振興及び観光振興について
議事内容	
・経営支援課長から、荒川区の産業振興施策について、観光振興課長から、荒川区の観光振興施策について、説明がなされた。	

議題	意見交換
議事内容	
・荒川区の産業振興及び観光振興について、各委員からの発言後、意見交換が行われた。	
(各委員の主な発言内容)	
委員	
・外国人観光客が都内でも増えており、オーバーツーリズムの報道がある。荒川区は面積が狭い区であり、観光客誘致の方向性については、地域の意見を聞く必要がある。	
・観光地そのものでなく、都内の観光地に来た方々に向けて、宿泊施設や体験場所などを増やして、地域の経済効果につなげるという方策もあるのではないか。	
委員	
・観光のことは、荒川区のコンパクトさを活かしたブランディングも考えられる。複数の観光資源を組み合わせ、区全体を1日で楽しむコースを設定するのも一案である。	

- ・観光客の多くは公共交通で各地を移動する。これを踏まえて、日暮里駅から繊維街を巡るコースなど、「駅」を起点として周遊するという手法を考えてみてはどうか。

委員

- ・日暮里繊維街は外国人観光客が増えて、店舗に来るお客様も増加している。一方で、観光ということでは、どうしたら地域での滞在時間を延ばせるかを考えていく必要がある。
- ・(観光客が)すぐに他の場所に移動せず、日暮里もしくは荒川区内で滞在してもらえよう、飲食店や宿泊施設を増やす方策、またそれをPRしていく方策が必要である。

委員

- ・地域経済の面では、区内企業の労働生産性が国や都と比べて低いことは課題である。開業率の上昇や事業承継の促進のためにも、お店や企業が「きちんと稼げる」ようになる必要がある。
- ・区の人口はしばらく増加傾向が続く。これは荒川区に魅力があるということ。転入の方々を含めて、区民にどう区内で買い物をしてもらい、どう区内企業の収益につなげるか。そのための方策について検討が必要である。

委員

- ・地域イベントは子どもと一緒に参加できるし、地元の美味しい食べ物やお店と出会い、地域とつながる機会にもなる。イベント情報が上手く区民に伝わるための工夫が必要である。
- ・地元のスポーツチームが典型的な事例だが、地元で自慢できるものを作っていけると良い。それが魅力発信につながり、区外の人も「面白そう」「荒川区に行こうよ」となる。

委員

- ・資料を見て、区内には魅力的な所がたくさんあることを再認識した。「荒川区には何も無い」と話す人がたまにいるが、全国の他の地域と比較しても数多くの見どころがある。
- ・観光や地域プロモーションでは、SNSでの「映え」をつい考えてしまう。しかし、ただただ「観光に来るひと」よりも、いかに「関わるひと(関係人口)」を増やせるか、その方策を検討するほうが良いと考える。

委員

- ・区内のモノづくり企業は急速に減少している。「儲からないから継がない、継がせられない、俺の代で終わり」という流れを変えるために、中長期的な方策を考える必要がある。
- ・町工場が廃業した場合も、その場所を近隣事業者や地域でうまく活用できる仕組みがあると良いと感じている。
- ・観光ということでは、やはり日暮里駅は外国人観光客の玄関口である。彼らを区内につなげて、滞在してもらえよう方策を考えていく必要がある。

(主な意見交換)

- ・川の手荒川まつりは、毎年同じ場所で定期開催するイベントとして定着している。また、たくさんの来場者に飲食物や特産品を販売する部分でも成功していると言える。これは、イベントの実施としてひとつの見本になる。
その一方で、飲食物の販売については、区内事業者の出展拡大を検討する余地があるのではないか。
- ・イベントについては、区が主催するものと区民団体が主催するものがあるが、いずれにしろ、スムーズな情報の伝達や共有、また広報が非常に重要だ。商店街などとの情報共有もポイントとなる。
- ・映画「あらかわミラクルLOVE!」は、ジョイフル三の輪商店街でハート型の紅ショウガ天を買い、それをあらかわ遊園の観覧車で食べる、そうすると恋が実するというストーリー。映画の中のフィクションだが、ファンタジックなストーリーが非常に楽しかった。ハート型の紅ショウガ天を良い事例として、この他にも楽しいストーリーで荒川区の「名物」を作って販売できれば、区の魅力PR、さらには地域経済にもつながっていくのではないか。
- ・区外で働く区民や若い世代は、帰宅する時間が遅いため、買い物は大手スーパーを利用している。こうした層に地元の店で買い物をしてもらい、地域にお金を落としてもらうためにも、新たな視点で方策を検討する必要があるのではないか。
- ・地域イベントの話では、例えば、会場となる公園や施設、駅前の場所などの利用方法をよく知らない人は多いのではないか。SNSの時代と言われるが、ネットワークはやはり人と人につながっている。イベントを実施する上での、こうした基礎的な情報について整理して、共有を図る必要があると考える。

(4) 区長閉会挨拶

挨拶	閉会にあたり、滝口荒川区長から挨拶があった。
(閉会挨拶要旨)	
・本日は、本当に貴重なご意見をいただいた。 ・地域プロモーションの目的は「関係人口」を増やしていくことであり、区内も区外も含めて、今後さらに荒川区との関係人口を増やしていきたい。 ・そうした方策を導き出していくため、次回以降、引き続きお知恵をいただきたい。	

(以上)